

小集会一覽

(暫定版 開催日時順)

1. 園芸学とウイルス学の異分野融合研究会 #2

要旨:園芸作物における病害は、栽培種の多様さや研究資源としての扱いにくさから、未だ原因不明のものが多い。特にウイルス性病害については、極小な病原体であることや、病原性の証明が困難であるために、病害防除の大きな障壁となっている。近年の分子生物学の発展により、ウイルスは比較的に見つけやすくなる一方で、その取り扱いに困る場面も増えている。また、公設試験研究機関では個々の業務が過剰であるために、本来は病害担当者が取り組むべき課題であっても、園芸学会をフィールドとする栽培や育種の担当者が対応に追われている社会的な背景もある。本小集会では、ウイルス学分野から新たな技術や研究への利活用方法の情報を共有することで、我が国の農業の発展に資する園芸学の分野の中で課題を見出し、また園芸学の洗練された技術と融合することで、課題の効率的な解決を目指す一助とする。

日時: 3月18日(土) 12:00~15:00

場所: 本館棟7F 71

世話人: 関根健太郎(琉球大農学部) k-sekine@agr.u-ryukyu.ac.jp

内容:

- | | | |
|---|--------------|-------|
| 講演1 「わが国におけるウイルス病害の現状と異分野融合共同研究の取り組み」 | 岡山大学 | 佐藤法仁 |
| 講演2 「網羅的ウイルス検出技術と高速ウイルス検出技術」 | 琉球大学 | 関根健太郎 |
| 講演3 「岩手県における植物ウイルス病診断の取り組み」 | 岩手県農業研究センター | 小山田早希 |
| 講演4 「果樹の病原糸状菌を病気にするウイルス」 | 農研機構果樹茶業研究部門 | 八重樫元 |
| 講演5 「ウイルスを攻撃しない抵抗性のメカニズム」 | 日本大学 | 井村喜之 |
| 講演6 「ウイルスベクター入門～黒穂菌感染による花の性転換現象の解析を例に～」 | 東京農工大学 | 藤田尚子 |
| 講演7 「園芸学とウイルス学の異分野融合研究会#2 を終えて(総合討論)」 | 静岡大学 | 中塚貴司 |

2. アスパラガス研究小集会

日時: 3月18日(土) 15:00~17:00

場所: 本館棟5F 51

世話人: 地子 立(北海道総研機構 上川農試 地域技術グループ) jishi-tatsuru@hro.or.jp

内容:

- | | | |
|----------------------------|------------------|------|
| 「アスパラガスの新栽培法「採りつきり栽培」について」 | 明治大学大学院農学研究科 | 蕪野有貴 |
| | パイオニアエコサイエンス株式会社 | 松永邦則 |
| 「アスパラガス超省力防除法の開発」 | 香川県農業試験場 | 池内隆夫 |
| 「北大農場でのアスパラガス品種の評価」 | 北海道大学環境科学院 | 于 海虹 |

3. 第20回ネギ類研究小集会

日時: 3月18日(土) 15:00~17:30

場所: 本館棟5F 52

世話人: 執行正義(山口大院創成科学研究科) shigyo@yamaguchi-u.ac.jp

内容:

- | | | |
|--------------------------------------|-------------|------|
| はじめに「ネギ類オミクス研究の意義と今後の展望」 | 山口大院創成科学研究科 | 執行正義 |
| 講演1 「ネギ類のオミクス解析におけるトランスクリプトームデータの活用」 | | |

- | | | |
|-------------------------------------|--------------------|------------|
| | 東北大院生命科学研究科 | 佐藤修正 |
| 講演2 「ネギ類におけるゲノム研究の進捗について」 | 農研機構野菜野菜花き部門 | 藤戸聡史・若生忠幸 |
| 講演3 「ネギ類におけるメタボロームデータの収集とその育種利用」 | 理化学研究所環境資源科学研究センター | 澤田有司 |
| 講演4 「タマネギ乾腐病菌の分子生物学的研究とその耐病性育種への応用」 | 山口大院創成科学研究科 | 佐々木一紀・伊藤真一 |

4. 第18回ウリ科作物研究小集会

日時: 3月18日(土) 15:00~17:00

場所: 本館棟5F 53

世話人: 佐藤達雄(茨城大農学部フィールドサイエンス教育研究センター)

tatsuo.sato.strawberry@vc.ibaraki.ac.jp

内容:

「ユウガオ花粉を利用したスイカの単為結実誘導」

農研機構北農研

杉山 慶太

「キュウリの収量構成要素と地域戦略プロの取り組み(仮題)」

農研機構野菜花き部門安

安 東赫

5. 第8回伝統園芸研究会

日時: 3月18日(土) 15:00~18:00

場所: 本館棟6F 61

世話人: 田中孝幸(東海大学農学部) ttanaka@agri.u-tokai.ac.jp

内容:

基調講演1: 奇品文化論

奇品研究家

浜崎 大

基調講演2: 植物遺伝資源を保存する —伝統園芸植物の例を交えて—

農研機構遺伝資源セ

山本伸一

基調講演3: 草木育種を読む —19世紀の人と植物—

江戸東京博物館

田中実穂

6. 第23回日本イチゴフォーラム

日時: 3月18日(土) 15:00~17:30

場所: 本館棟6F 64

世話人: 沖村 誠(九州沖縄農業研究センター) toma23@affrc.go.jp

内容:

講演1 「平成28年度植物品種等海外流出防止緊急対策事業について」

農林水産省食料産業局知的財産課

斎藤千栄美

講演2 「生果実(いちご)の輸出を促進するためのIPM防除体系の策定と課題」

農研機構野菜花き部門

武田光能

講演3 「冷蔵コンテナによる船便輸送と新規開発包装資材を活用した低コスト輸送」

農研機構九沖農研

曾根一純

講演4 「イチゴ生果輸出の取り組みについて(仮)」

GLO-berry Japan

伊東良久

7. 第47回「暮らしと園芸」を考える小集会

日時: 3月18日(土) 15:30~17:00

場所: 本館棟7F 71

世話人: 松尾英輔(前東京農大) a169sa@tsm.bbiq.jp

内容: 「大戦後における塚本洋太郎先生の花弁園芸展開と今日的意義」

元信州大農学部

藤田政良

(講演要旨)塚本洋太郎先生(京都大学名誉教授、花き園芸学)は、1958年の渡航制限の時期に国際学

会に参加し、その後も欧米の花弁園芸の研究動向、生産、消費の現場、市民の園芸、園芸植物を調査してわが国に紹介した。そして、花卉園芸学の研究と各種著書、「園芸植物大事典」等を刊行し、花卉生産者・現場や市民園芸にも熱い眼差しで対応して、大戦後の花卉園芸の発展に重要な役割を果たした。今日の花弁園芸のなかで先生の足跡や市民園芸(趣味園芸)への思いについて述べる。

8. 園芸分野における若手研究者交流会

要旨：産学官の多様な研究機関に所属する園芸分野の若手研究者が、野菜・果樹・花きの各分野において取り組んでいる研究について発表し、講演やディスカッションを通して情報交換や交流の活性化を図る。また研究発表に加えて、大学生や大学院生のキャリア形成の参考となる情報提供も行う。

日時：3月18日(土) 15:00～17:30

場所：本館棟7F 74

世話人：池田裕樹(農研機構東北農業研究センター) ikedah837@affrc.go.jp

内容：

講演1「民間種苗会社の育種と種子検査」

横浜植木株式会社

梅村ひとみ

講演2「熱帯果樹の分子育種に関する研究」

日本大学生物資源科学部

奈島賢児

9. ISC(国際柑橘学会)日本支部集会

日時：3月19日(日) 12:00～13:00

場所：本館棟6F 61

世話人：島田武彦(農研機構果樹茶部門) tshimada@affrc.go.jp

内容：平成29年度ISC(国際柑橘学会)日本支部総会の開催(支部会の活動報告、活動方針の審議・承認など)

10. 栽培系・環境制御系融合型施設園芸研究

日時：3月20日(月) 15:00～16:30

場所：本館棟5F 53

世話人：富士原和宏(東京大院農学生命科学研究科) afuji@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

内容：

討論会「本小集会が目指すもの、目指すべきもの」

農研機構野菜花き部門

岩崎泰永

話題提供「デジャブ・データ抽出による新しいCO₂施用法の提案」

東京大院農学生命科学研究科

富士原和宏